

高度環境政策・技術マネジメント 人材養成ユニット(大学院)

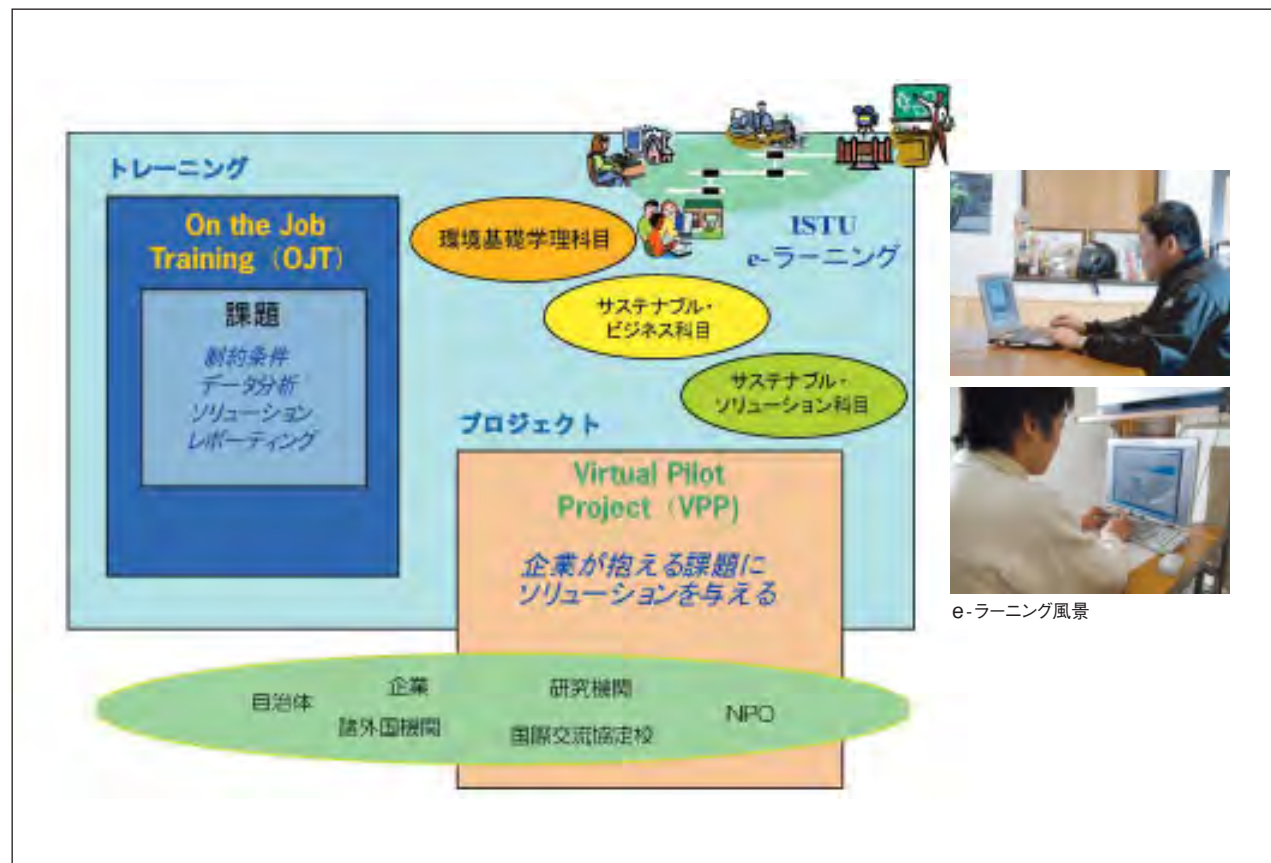
教授
石田 秀輝



助教授
古川 柳蔵



スタッフ



教育プログラム



e-ラーニング風景



スクーリング風景



ウェルカムパーティー



スクーリング風景

本ユニットは、平成17年10月に科学技術振興調整費の振興人材養成プログラムとして、開講された。地球温暖化、資源・エネルギー危機、人口問題などのグローバルな環境問題、また廃棄物リサイクル管理など環境リスク管理と汚染防御に関する正確な知識に加え、環境政策、環境技術、環境経営戦略等の高度な環境マネジメント技術の習得を目的としている。これらの知識と実践プログラムの経験を企業の技術開発の将来展開、経営戦略、および国際政策や自治体の環境政策に活かせる人材を養成し、社会(市民、企業、自治体)の環境行動の指導的役割を担える人材を供給する。すなわち、環境政策・技術分野に関する環境プログラム・ディレクターを養成することを目的としている。平成17年度10月に、製造業、素材産業、損保業界、マスコミ、環境コンサルティング、NPO、自動車業界など様々な業界・業種の社会人11名が、名古屋、横浜、東京、新潟、仙台と日本の様々な地域から入学した。

本ユニットは、既存の環境科学研究科の教育プログラ

ムと、世界的に著名な外部有識者および環境企業経営者によるe-ラーニング及びスクーリングによる講義、さらにOJT(On the Job Training)、バーチャル・パイロット・プロジェクト(Virtual Pilot Project)など複合的に組み合わせた独自のジェネラリスト養成教育プログラムを提供するものである。

e-ラーニングによる講義は、東北大学インターネットスクール(ISTU、<http://www.istu.jp/>)を通して配信されている。学生は、ID、パスワードを入力し、映像教材で受講することになる。毎月4、5講義が開講されるが、学生はそれぞれの講義で出される課題に取り組み、ISTUを通してレポートを提出していく。学習からレポート提出までインターネットで完結する。既に、平成17年10月25日～11月25日の期間で環境経営基礎学の2コマ、CSR戦略論の2コマが開講された。また、平成17年11月25日～1月5日の期間にCSR戦略論の4コマが開講されている。e-ラーニングの撮影は、主にISTUスタジオを使って行われるが、機材を使いこなすこと、撮影する側と撮影される側の事前

準備などで予測していなかった問題も発生し、これらを解決しながら、日々、e-ラーニング教材化の完成度を高める努力を行っている。海外の環境科学専攻の大学と連携して、講義のe-ラーニング化に関する共同研究も進展しつつある。

また、本ユニットでは、年間5回程度のスクーリングを土日祝日に開講し、対面講義を行っている。第1回スクーリング(10月8日、9日)では、オリエンテーションからスタートし、国連大学安井至教授、株式会社イースクエア代表取締役社長ピーター・D・ピーダーセン氏、石田秀輝教授の講義が始まった。講義は、環境が行政・企業に及ぼす影響、主要な地球環境メカニズム、環境経営の背景・歴史(公害から地球環境問題へ)といった基礎的かつ大所高所から環境問題を理解する内容であった。第2回スクーリング(12月17日、18日)では、OJTに関するオリエンテーション、国連大学安井至教授のエコプレミアム、石田教授の変化する環境・社会的制約条件の講義がグループワークを取り入れた形式で行われた。今後も海外講師によるスクーリングを含め密度の高い対面講義が計画されている。

OJTは、与えられた課題に対して、変化する環境状況の中で問題点を認識し、その解を得るために必要な情報収集を行い、解を導き出す力を習得するものである。2年間で4つの課題が学生に与えられる。学生は3人程度のグループに分かれ、それぞれに与えられた課題に取り組む。第1回目のOJTでは、マテリアルリサイクルの促進、再生可能エネルギーの活用、CO₂削減のための施策に関する課題に対して、制約因子を分析し、ソリューションを見つけ出し、Term Paperとして論述するものである。環境科学研究科の教授が指導教員として各OJTの課題の指導を担当する。学生同士のグループワークと指導教員との議論の中から、オリジナリティーに富んだソリューションが生まれ出されることを期待している。

今後、環境経営の導入がイノベーションに与える影響に関する研究も開始し、環境経営と技術のかかわりを深く考え、研究成果を本ユニットのカリキュラムに反映させていくことも検討中である。本ユニットでは、常に世界の動きを把握し、新しいカリキュラムを提供していくことを目指している。